

The Japan Interior
Designers Association
Monthly Report
No.250
Oct, Nov, Dec, 2010

JID news

JID月報：通巻250号
平成22年10月・11月・12月号
発行日：平成22年12月31日

発行：(社)日本インテリアデザイナー協会
〒163-1008 東京都新宿区西新宿3-7-1
新宿パークタワー8F
電話03-5322-6560 FAX03-5322-6559
発行人：喜多 俊之

社団法人日本インテリアデザイナー協会

目次

巻頭：JIDnews250号記念(理事長)	JIDnews250号記念	2
	本部報告(総務委員会)	2
	本部報告(国際委員会)	3
	本部報告(広報委員会)	3
	支部活動報告(関東事業支部)	4-5
	〃(九州事業支部)	5
	〃(中部事業支部)	6
	〃(関西事業支部)	7
	トピックス	8
	MEMBER'S SALON	9
	白石勝彦さんを偲んで	10
	事務局からのお知らせ	11

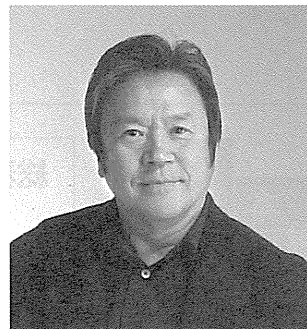
250 JIDnews250号 記念

理事長 喜多 俊之

財団法人日本インテリアデザイナー協会のJID Newsは、250号の節目を迎えます。戦後60数年これまで私たち日本の経済と発展は奇跡と言われてきました。そして現在日本の大きな経済産業の波はアジアにも波及し、多くの国々が大きく発展しています。多くのアジアの国々が目指すように、私たちも一人一人の日常生活の幸せで健全な暮らしは私たちの文化や、人と人とのコミュニケーションを育むことを見つめ直す時代が訪れているのです。

人件費の高さや、高齢化が大きく進む私たち日本のこれからを考える時、まず幸せな家庭生活の場、そして活発な商業空間、そして働きやすいオフィス空間等、インテリア空間の重要性は増すばかりです。人を楽しく招き入れる住まいや、高齢者が健康で楽しく過ごせる住まいなど、特にアジア諸国同様、住環境には、大きな関心を寄せ、その実現に向かう事は大切です。アジアの多くの国々で、一家族120㎡前後の住宅のナショナルプロジェクトが普及していることも見逃せません。狭い住宅、狭いオフィス空間、そして狭い商業空間は、戦後日本の問題として仕方がないと片づけられていたところがあります。しかし、これから未来の生活文化や、産業経済を考える時に、これらが大きな問題として横たわっていることは、現実的に受け留める状況にあります。この問題にどう対処していくかということは、行政だけでなく、私たち皆が関心を寄せるテーマでもあるのです。各地の伝統工芸の衰退から消滅へ向かっている問題や、人々の希薄なコミュニケーションに対する問題等は、狭いという問題を抱えた私たちの住空間を始めとする、インテリア産業界の課題でもあります。

創立以来半世紀以上が経過し、JID News 250号を迎えるにあたって、次なる私たちのテーマを見つけ出し、夢と希望のある素敵な暮らしや職場、そして公共空間や商業空間等、これらを今もう一度取り組み直す時に来ていると考えるのです。インテリア産業活性化は、人々の生活の活力を増大させ、活発な人々のコミュニケーションを呼び起こし、力強い社会の実現へと向かうものと確信しています。



JID news 250号を迎えて

今、手許の資料を見てみると1958年11月24日に日本室内設計家協会が創立され、翌59年1月15日に会報の創刊号が発行されています。以来50有余年、会の広報の役目を担い続けて250号ということに、お祝を述べると同時に感慨深いものがあります。

その間、協会は1969年7月25日 社団法人／日本インテリアデザイン協会として法人化されていますが、協会の広報として年4回の発行を守り、1979年8月号の通巻94号からJID NEWSとして現在まで繋がっているわけです。

創立期の激動の時代に、我が国生活デザインの確立のためインテリアデザインの基盤造りと職能団体としてのデザイナーの結束のため、厳しい環境のなかで同志を募り、団結を高め、国内外との連携もはかりながらの活動には先人達とそれを継承してきた会員達の並々ならぬ努力があつての結果だと敬服しています。一会員として36号の創立10周年記念特集号は'68インテリアデザイン会議「変貌する市民生活と住まいの秩序」の高揚した気分を報じているのが印象的です。

その後幾多の展開を重ねて迎えた『1995年世界インテリアデザイン会議「IFI '95 NAGOYA」／インテリア・あたらしいねりの創

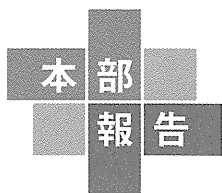
川上 信二



造』の諸準備、企画を広報している95年9月発行の188号などその熱気が誌面からも溢れている様で、思わず勇気づけられました。この時期をピークに会員数は時流に逆えず減少していきませんが、2008年12月発行の242号は創立50周年記念事業特集号として「このころのデザイン '原点'」をテーマに半世紀に及び国内外のインテリアデザイン

に関与し共に生きて来たJIDの姿とインテリアデザイナーの役割の大きさを改めて報じており画期的です。

昨今の公益法人化見直しは新たな問題意識と行動を要求していますが、この難局とも言うべき今、JID NEWSは紙面からウェブデザインニュースへの移行を諮っていると聞いています。国際的に活躍している理事長ともども活性化のためには誠に機を得ているといえます。世代交替も視野に飛躍的な活性化をこれからのJID NEWSが果たしてくれることを期待しています。



総務委員会

担当理事：佐藤 健一
委員長：伊藤 公一

2011 New Year Party 開催のご案内

本部総務委員長 伊藤 公一

毎年恒例の New Year Party が、1月14日(金)行われます。今回はパーティ会場も、新宿オゾンの隣「新宿ワシントンホテル」に移し、例年以上に多くの皆様のご参加をお待ちしております。正会員の皆様、賛助会員の皆様お誘い合せの上、是非ご出席ください。

日時

平成23年1月14日(金)18時30分～20時30分

場所

新宿ワシントンホテル 新館4階 宴会場『桜』

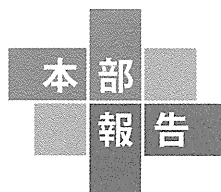
東京都新宿区西新宿3-2-9 TEL03-3343-3111(代)

会費

お一人様 ¥6,500

ご出席の方は1月11日(火)までに本部事務局までFAXにてお申し込みください。

JID 本部事務局 — FAX 03-5322-6559



国際委員会

担当理事：岩倉 榮利・酒井 正人
委員長：高田 公平

APSDA報告

本部国際委員会委員 森 美香子

10月9日、北京で開催されたAPSDA,2010 Beijingに高田公平 本部国際委員長と森美香子の2名が出席しました。会場は、北京オリンピック公園の前にある中国国際コンベンションセンターの会議室で、今回の参加国は、アジアとオセアニアの9カ国:25名が出席して行われました。

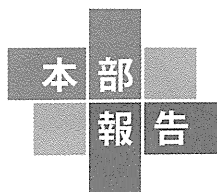
議長は、次期開催国のインドIIDの理事長:Dave氏が、議長補佐は、台湾のCSID理事長:Chung氏が勤められました。

まず冒頭の議長からの挨拶は、今回の主催団体CBDAが、中国政府から総会出席の許可がないという異例の事態が生じたことが伝えられ、主催国が総会に出席できない予想外の総会を一致団結して実りのあるものにしていきましょう!というスピーチから始まりました。議題に沿って、まずAPSDAの運営方法と各団体との相互連携の提案と意見交換が行われました。各団体から、コミュニケーションのためのホームページの作成、学生とプロに分けたアワードの実施、APSDAのブランディング化など、自由に21の提案が出されました。



決定事項は、オーストラリアのCDAから提案されたAPSDAコミュニケーションのホームページの制作。事務局は次期開催国が2年間受け持つこと。その他に、次期開催国のインドIID代表からは2012年の開催概要のプレゼンテーションがあり、テーマは「Exploring Solution」開催地はリゾート地のGoaで行うこと。その後の開催国のインドネシアHDII代表からは、2014年にテーマ「Mystical Java」総会はSoloで、コンGRESはJogjakartaの2都市で開催することが発表されました。

最後に、決定事項の確認が挙手で行われ、総会は閉幕となりました。その他には、CBDAが準備してくれた、北京料理のディナーと、世界各地から招聘された著名な建築家やデザイナーが講演を行うデザインコンGRESに、半日間参加して帰国しました。APSDA総会に、出席して各協会間のスムーズなコミュニケーションが重要であること、各国のデザインイベントに、相互に連携していくことが求められていると感じました。報告会は11月22日新宿リビングデザインセンター8Fにて開催したことをご報告致します。



広報委員会

担当理事 兼 委員長
：石川 尚・小野 由記子

初のJID広報全体会議開催！

本部広報委員会委員長 石川 尚



新規JID(本部)広報委員会は今年度より喜多新理事長のもと新組織運営試行の一環として、去る11月27日、四支部広報・情報委員会参加の初全体委員会(賛助会員:株式会社フジエテキスタイル本社会議室にて)を開催しました。

全体会議は、会員減少の現状下、本部支部組織の横串し化を行い、活動の効率化、情報の共有化など統一活動が目的です。初の全体会議では終始和やかな中にも今後の広報活動の方向性と問題点について協議しましたが、とにかく『楽しく!をキーワードにJIDブランディングアップを目標とする広報活動を進めて行こう!』と、全委員一致しました。

あらためて確認された今後の広報活動方針は、下記の通りです。

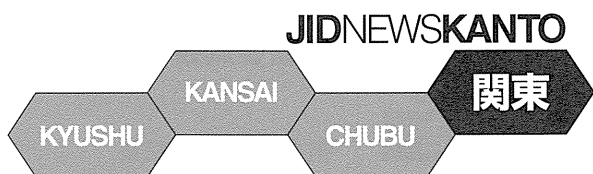
- ・ JID(本部) 委員会は、4支部広報(情報)委員会運営に。
- ・ JID Newsをより広く、より多くの方に伝えるウェブデザインニュースに。
- ・ JIDホームページを、時代に沿ったデザインサイトに。
- ・ JID 活動プレスリリースを定例化に。

上記を基に具体的なアクション(事業項目、予算化)に入ります。ただ、各支部が遠路である為、今回のような統一活動を実現するには経費問題(本年度予算は前広報委員会が作成したため、今回の全体会議予算は計画されていない)が発生します。今回の経費については、JID NewsおよびHP運営費などを削減してこれに対処することとなりました。予算一つをとっても様々な問題が山積の現状、しかしながらこれらを推進克服しなければ今後のJIDブランディングアップは実行できません。

JIDブランディングを担う広報活動の今後、皆様の益々のご協力を賜りたいと考えていますのでよろしくお願い申し上げます。

・ JID広報委員会メンバー

委員長:石川尚・小野由記子/関東事業支部広報:委員長 櫻井良樹、副委員長 小林雄二、(JIDweb担当リーダー)鳥井貴正、菅野民子、安田恵/中部事業支部情報:委員長 竹川好郎、太田一彦/関西事業支部広報:委員長 塚口眞佐子、(JIDnews担当リーダー)八十常充、村上信/九州事業支部情報:委員長 前崎彌生



SALON JID KANTO 開催 “みんなのサロン：気軽になんでも語ろう会”

関東事業支部
支部長 井出 昭子

今期、誰にでも解りやすく参加しやすい運営を目指しているNEW JID KANTOでは、多くの皆様から、全会員が気軽に参加できる場を…、開かれた組織運営を…などの大変貴重なご意見を多数頂き、9月14日(火)18時より『SALON JID KANTO』“みんなのサロン：気軽になんでも語ろう会”を開催しました。

「日頃感じた事、聞きたかった事、こんな話、あんな話なんでも結構です。楽しく語り合いませんか」の呼び掛けに支部会員および賛助会員あわせて50名の参加を頂きました。第1回目のサロンは、(株)フジエテキスタイル (JID賛助会員)様のご協力にて、東京ショールームをお借りしての2時間半、1人1品持ち寄り形式、手造り感あふれたアットホームな雰囲気での盛会でした。

JID関東の活動報告、新プロジェクト・メンバー・バンク構想についてなど、池田副支部長より簡単なプレゼンテーションを行い、新公益法人制度改革委員会リーダーの石川理事より、アンケート結果(関東支部会員対象)報告説明、その後は4テーブルを囲むグループ内で、グループリーダー進行役により自己紹介やJIDについて対話式で意見など交換。JIDへの活動に対する期待や感心が高い事などいろいろのご意見が伺えました。中盤以降(酒が回った頃)各テーブルとも会員さん同士が活発に和気あいあいと話が出て大変楽しい有意義なサロン会となりました。今後も順次サロン会を開催予定です。ご参加の皆様お忙しい中ありがとうございました。



第16回 デザイン職人四方山話し開催

関東事業支部
国際交流委員会
委員長 星 富士子

秋も深まり師走の足音も聞こえる11月26日オゾンセミナールームにて、経済産業省の方々、JID会員、オゾン会員、一般、学生等、約75名参加して、第16回目のデザイン職人四方山話しを行いました。



今回は話し手に喜多理事長、コーディネーターに武蔵野美術大学教授柏木博氏を迎え「地域に根ざした新しいデザインの展望」と題して、喜多氏のこれまでの、地場産業発展のために長年関わってこられた経緯エピソード等、盛りだくさんにお話し下さいました。

中でもその地域での職人さんとの関わり方、日本の伝統を残そう、そして世界につなげようとする、喜多氏の意欲が改めて伝わってきました。

さらには、伝統工芸を守るという事は、必然的に自然環境につながるという事を、又考えさせられました。そして日本人の誇り、文化の大切さをあらためて感じました。なんと言っても、喜多氏は新たなデザイン力で世界に発信し続けていると言う事実心に心打たれ、大変有意義なセミナーとなりました。



そして最後に初公開の動画も、披露してくださり、大盛況のうちに終了しました。又喜多氏、柏木氏、経済産業省の方々を迎えての懇親会も、大変盛り上がりしました。

「伊勢神宮」秘められた意匠の話

関東事業支部

総務委員会

委員長 池田 和修

さる平成22年11月5日東京千駄ヶ谷津田ホールに於いてJIDセミナー日本の意匠「温故知新」物語第2話1300年生きつづける常若のこころ『伊勢の神宮』秘められた意匠の話を神宮司庁様ならびに神宮式年造宮庁様のご協力のもと開催いたしました。

神宮禰宜として奉職されていた五十鈴塾塾長の矢野憲一氏には神宮の歴史と信仰・暮らしの中の伝統文化など、心に響くお話と、神宮式年造宮庁神宝装束課長の采野武朗氏には普段目にするものの出来ない貴重な御装束神宝の写真と、式年遷宮において古例のまま一切を一新することが千年以上受け継がれているという驚きと感動のお話を聴きました。

世界に類を見ない遷宮の伝統文化を知り、それを伝承していくことの重要性を、私もモノ作りの1人としてあらためて認識いたしました。

今回のナビゲーターは、伊勢ご出身のサイレントグリス株式会社社長豊田彰氏(賛助会員)にお願いし、講師の方を交えてのトークショーも大変楽しく、興味深いお話を聴くことができました。120名近い多くの方々に御聴講いただきありがとうございます。

次回、日本の意匠「温故知新」物語第三話をご期待ください。

こどもインテリアデザイン学校の活動をPR

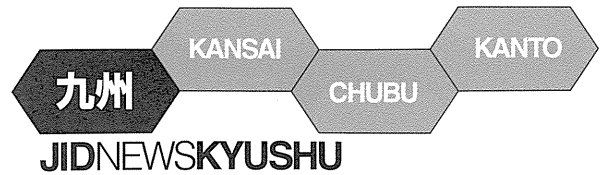
関東事業支部

研究委員会

小川 和彦

関東研究委員会では、去る11月17日から19日に開催されたジャパンテックス2010において、昨年度のこどもインテリアデザイン学校の活動のPR展示を行いました。展示は、活動内容の説明、こどもインテリアデザイン学校の授業風景、こどもの作品等を中心に、JIDのPRパネルも加え展示を行いました。10枚のパネルのみの展示ですが、貴重なPR活動であったと思います。

今後このような活動を通しこどもインテリアデザイン学校だけではなく、広くJIDのPRが行えればと思います。



宮崎例会の開催報告

九州事業支部

支部長 江島 太士

天下一薪能の地、延岡に尾形栄氏をたずねる

平成22年10月9日(土)～10日(日)、今回は宮崎県の北部延岡市で活躍中の会員、尾形栄さんのお膝元での例会となりました。延岡市は人口約13万人で、昔は延岡藩の城下町でした。現在の延岡市はツインのマラソンランナーで有名な旭化成の工場もあります。

尾形さんはこの地で自宅兼事務所 アトリエ・アイを設立して、店舗や公共施設のデザイン設計をされています。また、延岡ロータリークラブの会長を今年の任期まで務められた地元の著名人でした。

時間の都合でこれまで手掛けた物件を見て回ることは出来ず、今回は「のべおか天下一薪能」の鑑賞ということで、9日PM2:30会場の延岡城址二の丸広場へ車で向かいました。あいにくの雨で透明シートが架けられた総檜の舞台を見る。近くの桜の小枝にはいくつものテルテル坊主が泣いていました。

つぎに延岡を360度パノラマでみられる標高251mの愛宕山に登り、眼下に広がる街並みと海岸線を一望、天気の良い時は太平洋上に四国が見えるそうです。後ろには紅葉を見せ始めた高千穂の山々がかすんで見えました。ここは日本夜景遺産に認定されているところでした。

PM5:30から、雨のため市内の総合文化センターの能舞台にて能を観る。耳を貫く鼓、人の声とは思えぬくらいに響く言葉など能の文化にとっても驚き、感動しました。

雨が降らねば、空を覆うように立ち並ぶ棕の大木やその奥にそそり立つ城壁の苔むした石垣、その前に組み上げられた能舞台、左右には大きな篝火で焦がす夜空と、照り返す木の葉天井の「薪能」、いつかじっくり大地に坐して観てみたいものです。

能鑑賞の後はホテルにて2月のイベントの打ち合わせの後、話の弾む懇親会でした。翌日10日は尾形さんが仕事で不在のため高千穂峡谷(神話の里)の奥深い自然の水と紅葉を楽しみながら散策して、現地解散となりました。

今回は尾形さんの友人で元延岡市役所勤務の酒井修平さんの案内で、普通では廻れない場所も特別許可車として予定時間内での観光を終えることが出来ました。

尾形さん、そして酒井さん大変有難うございました。



中部インテリアデザイン連絡会 第7回リレーセミナー

中部事業支部
支部長 小林 修

「アメリカのインテリア事情 — 大学教育を通して」と題して、中部インテリアデザイン連絡会第7回リレーセミナーが2010年9月／東邦ガス栄ガスビルに於いて行いました。

講師にアメリカボストン在住・Mount Ida Collegeインテリアデザイン学科教授・山本 保氏を迎えて、アメリカのインテリア業界や最近事情を教育の現場と共に、自ら関わりのある様々なプロジェクトや近年話題の建物を紹介されながら、設計事務所におけるインテリアデザイナーの役割や立場など物件写真と共に解説され、さらに多様な人種で構成されるアメリカの学生とのやりとりを熱く語っていただきながら、ボストンの町並みと建物や大学施設の特徴が解説され、大学の古い建物に新しい機能の建物が増築される状況はデザイン的に大変興味深く聞くことが出来ました。

又山本氏は日本レンダラーズ協会のメンバーとの交流もある事から、多数の名古屋のメンバーが駆けつけてセミナーを盛り上げてくれました。



山本 保氏略歴

Tamotsu Thomas Yamamoto

京都市立芸術大学大学院終了後渡米(1972)

MIT研究員、ボストン建築大学を経て、ボストン美術館付属のpostgraduate programを終了

1979年からMount Ida Collegeでインテリアデザイン教育に携わる。

主催 中部インテリアデザイン連絡会

<構成メンバー>

- ・日本インテリアデザイナー協会中部事業支部
- ・中部インテリアプランナー協会
- ・インテリア産業協会中部支部
- ・日本インテリア学会東海支部
- ・AIA (アクティブ・インテリア・アソシエーション)



講師を囲み実行委員と協力メンバー

第2回 JID CHUBU会員 (作品・活動) 発表会

中部事業支部
杉崎 晃久

10月8日(金曜日)デザインセンター共同会議室にて昨年に引き続き、第2回中部事業支部作品発表会を開きました。

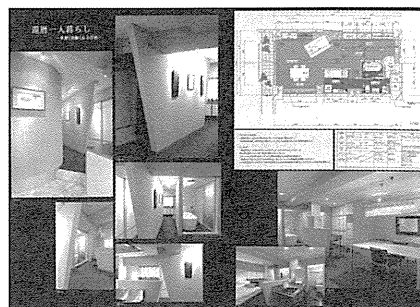
いつもJIDの活動を共にしている仲間が実際にどんな仕事・活動をしているかと思うとあまりわからない部分があり本業の仕事の作品・商品・活動・研究の発表する場を企画しました。

発表者は協力企業カリモク家具株式会社、会員は太田一彦、宮地敦子(新入会員)、大瀧隆、桑田和子(新入会員)、舟橋伸治、安藤清の順に発表しました。



カリモク様からは無垢材料のお話、会員からは家具作家の椅子への思い、漆の作品の紹介、店舗経営と造園デザインのお話、フランスデザイン紀行など、そして新入会員の宮地敦子さんからは住宅・店舗・家具などの作品の紹介。続いて新入会員の桑田和子さんからは2010年「住まいのコーディネーションコンテスト2010」経済産業大臣賞受賞作品の紹介など盛りだくさんの発表会となりました。傍聴者からは率直な意見・質問など貴重な話があり大変充実した1日となりました。

終了後は「旬の店探訪」で大いに盛り上がりました。来年も会員同士の刺激の場として第3回を企画していきたいです。皆さんお疲れ様でした。



「素敵なくらしセミナー」報告と JIDフレンズ・Kansai

関西事業支部
研究セミナー委員会
鬼田 勲

今年度より計画中の「JIDフレンズKansai」。

それは社会と共にあるJIDの観点から、一般個人の方々を対象とした「素敵なくらしを創る」をテーマにした新しい会のスタートです。

第一弾として「素敵なくらしセミナー」を喜多俊之理事長の「ギャラリーanima」で開催しました。

今回は「色」について

「インテリアデザイナーが語るカラーコーディネートの本当のところ」と題して会員の塚口眞佐子が講演しました。

第一部は「新たな発見」を編。

オレンジ色は暖色系で温かく感じるとか、ブルーは冷たく感じるなど、一般的な色の感情効果にとらわれない、色彩計画とその検証を「リハビリ病院」、「未来型実験集合住宅」などの事例を通して発表され、居住者の反応や、検証結果の中に「新たな発見」があることが示唆されました。

第二部は「もっと自由に 実際の住宅で」編。

さらに大胆な色彩計画を提案型住宅で紹介。色の違いで空間の広がり方の違いをBefore&Afterで紹介するなど、幅広い色彩計画の話が続きました。

「もっと自由に色彩を取り入れてみませんか」と話す、塚口さん。自由かつ大胆な色使いの裏には、環境の変化による色の見え方の違い、環境になじむ色彩など塚口さんの仕事の中で研究、検証の積み重ねがあることを感じました。90分の講演時間があっという間に過ぎた盛り上がりのあるセミナーでした。



講演する塚口さん



熱心に聞き入る受講者の皆さん

開催日時：平成22年11月6日(土)

場所：ギャラリーanima

参加人数：26名+(JID会員6名)

後援を頂きました、団体及び企業

(財)大阪デザインセンター、(社)総合デザイナー協会、(社)関西インテリアプランナー協会、日本色研事業(株)、(株)ビビッド ヴァン、大阪デザイン連合機構、日本インテリア学会関西支部



「日本の空間デザイン展」 & USD-Oフォーラム

関西事業支部
事業委員会
委員長 清家 淳一

「日本の空間デザイン展」開催です。(来場者：デザイン展450名・セミナー80名)

関西事業支部 山本 紗代子支部長より、(社)日本インテリアデザイナー協会主催の2010年JID賞ビエンナーレ紹介、応募数は217点、その中の受賞作品紹介がありました。

大賞には「佐川美術館 楽吉左衛門館」楽吉左衛門+内海慎介竹中工務店大阪本社設計部作品が受賞し、その他多数の受賞作品を「大阪くらしの今昔館」企画ホールに、展示していること、インテリアデザイン領域の広さ、伝統的な美意識を楽しんで下さい、と報告がありました。

続いて、フォーラムは、2010年JID賞ビエンナーレ大賞受賞「佐川美術館 楽吉左衛門館」について(株)竹中工務店 大阪本店設計部副部長 内海慎介氏にお願いし講演いただきました。結果、お茶に興味をもたれた方々が楽吉左衛門氏の感性表現する茶室を見たい聞きたいと望む女性参加者が多く見受けられました。アプローチから動線、建築資材・原寸大模型・工程・建築技術へとエピソードを交えての話の展開で瞬間に講演が終了しました。つづいて「デザイン政策の動向について」を近畿経済産業局サービス産業室 田口一江氏の報告があり、講演会終了後内海氏を囲んでの懇親会にはUSD-O団体メンバーと匹敵するJID会員メンバー多数参加で、遅くまで楽しんでいただきました。



HIRAMEKI展

寄稿：フィンランド在住 ソニー・中井 氏

フィンランドのデザイナー64名の作品を集め、フィンランド関係者にも強い印象を与えるため日本語で[HIRAMEKI]展として11月28日から12月7日までの10日間、新宿のリビングデザインセンターOZONEでデザイン・フォーラム・フィンランドが主催するフィンランド国家プロジェクトとして行われました。



オープニングはウォッカ(フィンランド産)で乾杯。ボトルのデザインはハッリ・コスキネン氏。今回キュレーターとして参加されました。

会場は穏やかなフィンランドの冬をシンボライズして、雪をイメージする白い大きな風船で飾りました。1階のロビー、3階と6階の展示場にはデザイナー自身がアテンドし、デザインやフィンランドの文化などについて直接話しかけるなど楽しい雰囲気で行われました。

在日フィンランド大使館が主催する外交官へのイベント。フィンランド人モデルによるファッションショー「pechakucha」など多くの

興味深い催しでフィンランドに触れることが出来ました。

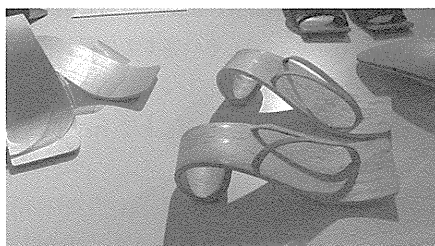
HIRAMEKI プロジェクトは2年前に経済大学のオーディトリウムで紹介され、日本のビジネスカルチャーや文化情報と共に、日本のデザイン市場の可能性を説明されましたが会場は満員状態で、それほどフィンランドのデザイナーたちが海外での活躍を目指していることを実感しました。

HIRAMEKI 展の魅力は、世界で知られるフィンランドのサステナビリティを代表する70年代のデザインと、未発表の現代デザインを象徴するグローバルデザインを一度に見ることが出来て、フィンランドデザインを新しい角度から認識出来たことと思います。

HIRAMEKI 展の記事はヘルシンキ新聞の一面に掲載されました。今年最大のデザインプロジェクト予算を掛けて行われたHIRAMEKI 展は世界市場へ発信するフィンランドデザインの試みです。

オーダーを受けたデザイナーもありましたが殆どは名刺交換で、幅広いコンタクトは出来ましたがオーダーにはまだ大きな課題を解決しなければならないケースが多く、この先一年で結果が生まれると予想しています。

来年も HIRAMEKI 展を更に大きく広げる企画は整っています。



薄い突き板を張り合わせて曲げる技法のサンダル。アールトの家具技術を受け継いだ注目のデザイン。



薄い木で作られたハンドバッグは目を引きま。



フィンランドの現代デザインを代表するエーロ・アールニオ氏のランプデザイン。



日本の伝統産業の南部鉄器。世界に市場を拡大する戦略として、フィンランドのデザイナーを採用。蓋に白色のセラミックや赤い漆などのバリエーションを展開。



→ 70年代から活躍し、フィンランドデザインを代表するヨウコ・ヤルビサロ氏の椅子のデザイン。素材の選択、シンプルなフォルム、座りやすさ、耐久性が追求されている。



1枚のマットレスにくぼみを施したアイデアによるソファのデザイン。

MEMBER'S SALON

JID Newsを彩る会員情報の交流サロンです。
メッセージやレポート、エッセイなど、自由な会員の
声をお寄せください。

「TANBA」篠山ギャラリー KITA'Sセミナー

関西事業支部
八十 常充

秋が深まった10月31日、JR大阪駅から福知山線で約1時間 丹波篠山には日本六古窯の一つ丹波焼(立杭焼)があり、多くの窯や職人が集まっている。

そこに今年3月、喜多理事長が「篠山ギャラリーKITA'S」をオープンされました。

ギャラリーには「TANBA」の新作のほかには有田の磁器<HANA>シリーズや輪島の漆器、燕のカトラリーなどがトータルに品よく展示されている。

第1回篠山ギャラリーKITA'Sセミナーはギャラリーの2階、昔懐かしい民家の香りが残る木づくりの階段をあがった和室の2間続きの部屋で欄間や障子など建具は古いままを生かして「和」のインテリアを KITA'S Design の和紙の照明器具が溶け込んでいます。

セミナーは地元の窯元職人4人と喜多理事長とのトークショー 丹波焼の土や釉薬など伝統技法と KITA'S modernをマッチングさせたデザインを生み出す過程を喜多さんが提案する形への思いを受け止めて、焼物特有の制作の難しさを職人技が克服し、新しく現代の器として仕上げた苦労話など地元ならではの興味深いお話でした。

その後はギャラリーと中庭を挟んだレセプションルームで参加者全員がワイン片手に地元産の食材を使った美味しい料理を頂きながら、時間の経つのを忘れて話の輪が広がっていました。



公開講座「家具をどうデザインしてきたか」 ー火事に遭い喘息と闘うなかで生まれたものー 関東事業支部 木村 戦太郎

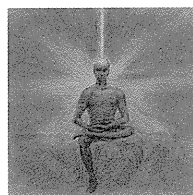
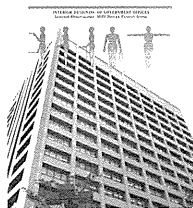
去る11月30日、文化女子大学で表記題目の公開講座を行いましたので概要をご報告します。

私の教員歴は13年ですが、家具デザイン歴は30年以上です。講演を引受けるに当り思い返すと、私の代表作と云えるデザインは1985年末に火事に遭い、その半年後の喘息発病以降に集中しているのです。喘息を完治するのに7~8年掛り、始めの3~4年は重篤な状態でした。発病したときが47才、中年の重病に、何故それ以前の元気一杯だった時より良い仕事が出来たのだろうか、と考えました。

一つは、丁寧に計画的に仕事を進めた事。重篤な時期は絶えず息苦しく、日に3~4時間のワークが限界でした。毎日の予定をコ

官公庁オフィスインテリア

内閣府の建築
省庁の建築
地方自治体の建築
民間企業の建築
住宅の建築
商業施設の建築
公共施設の建築
教育施設の建築
医療施設の建築
福祉施設の建築
スポーツ施設の建築
文化施設の建築
宗教施設の建築
その他



ツコツ積み重ねた結果が、それ以前の力任せの仕事を上回った様です。もう一つは、発病以後のデザインに「生まれたもの」が多い事。諸条件を整理し夢中に取組む内に、気付いたら最終案が生まれていました。病気への危機感と家族への想いがそうさせたのでしょうか。さらに云えば「情報革命の夜明け」にオフィス家具に取組めた事。罹災直前のJIDWGによる「省内デザイン化推進計画」での5年間に渡るハードな活動経験が切っ掛けになり、そこでの知見が仕事に活きました。

■お詫びと訂正

JIDニュース249号、理事所信表明の岩倉榮利理事(2ページ右下)の写真下2行分が製版時の不手際により、欠落いたしました。誠に申し訳ございませんでした。お詫びと正しい文章の掲載をいたします。

理事 岩倉 榮利

ここ数年、世の中の動きや変化が一段と速くなっているように感じます。

だからこそ一方で、時にはゆっくり考えじっくり取り組むことが一層大切になるのではないかと私は考えています。

なぜならば、速さを追求することにとらわれ過ぎると目先のことに気をとられその本質を見失ってしまうことがあるからです。

近年私たちを取り巻く自然の破壊が急激に進んでいます。それは、人間が目先の便利さを求めて先を急ぐあまりに守らなければならないものを見失っているからかもしれません。私はこれからも常に本質をみつめ JID のブランド力を高め正しいと信じる道を着実に歩み続けたいと考えております。

白石 勝彦さんを偲んで

長岡 貞夫

白石さんは数年前脳梗塞で入院され、その後自宅でのリハビリの効があつてJIDの委員会活動にも復帰、日頃元気な姿をお見受けしていました。

九月、ある会合で偶然お会いし健康状態について伺ったところまあまあですと短い会話をかわした矢先、十月二日の突然の悲報に接しときには信じ難い心境でした。

私と白石さんとの出会いは、当時まだJIDの会員でなかった、1972年度のJID賞受賞の知らせを当時理事長であつたご本人からの電話連絡でした。以来四十年、公私にわたるお付き合いでした。

「JIDとの関わり」

皆さんご承知のように、白石さんはJIDの創立会員の一人であり、亡くなるまで最古参の現役会員として、つい最近まで、多くの委員会为中心的に活動をされたことは記憶に残るところです。特に、IFIの関わりでは二年毎に加盟国で開かれる総会・デザイン会議には熱心に参加しインテリアデザインの国際的な動向に関心をもたれていました。また、70年代のJIDがまだ発展途上にあつた時代の1972年から79年までの七年の長い間、理事長の任をこなされました。

筆者は桑沢時代の白石さんのダンディーでカッコいい姿をよくお見受けしていました。それは当時はやりの慎太郎刈りにジーンズで、フランスの名車シトロエンDS22のハンドルを握るすがたはデザイナーとして絵になっていました。

「白石さんデザインの道」

白石さんは桑沢デザイン研究所（KDS）を卒業後、当時桑沢の講師であつた橋本徹郎氏（色彩研究・デザイン）の助手としてオストワルトの色彩システムについての講義が縁でKDSと関わり、以来後進の指導にあたりながら、フリーランサーとして白石勝彦住空間設計室を開設し、木製、籐材による家具デザインや新宿京王プラザホテルの飲食空間の商業施設など広範な創造活動でした。

また、新制作協会の建築部会の会員として同協会展に新しいデザインを意欲的に発表し、1962年には「新作家賞」を受賞されています。

「白石さんの多様な顔―船と白石さん」

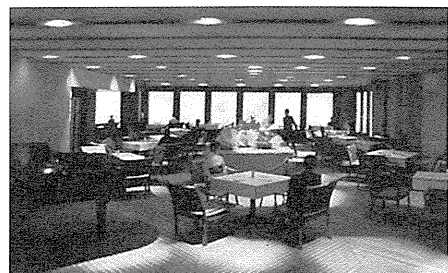
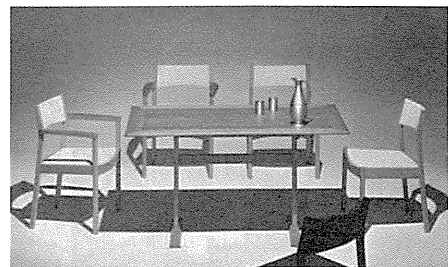
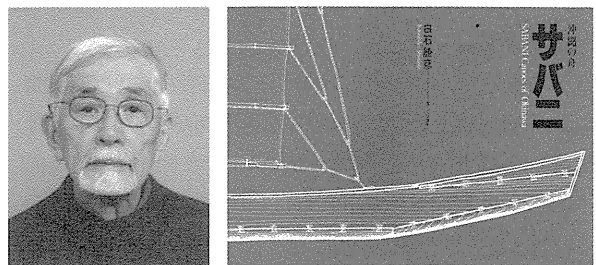
また、白石さんは船が好きでした。それは男のロマンを掻き立てる対象でもあり、そして海軍の要職にあつた厳父のDNAかもしれません。自らヨットを手繰ったり、模型を製作して自室に飾り、その自慢話を聞かされもしました。とりわけ、琉球列島で古くから使われていた漁船、通称サバニに興味をもち、1985年に冊子『沖縄

の舟サバニ』を編集・発刊をしています。手元にある同著を読むと、サバニの船形や木造船技術に関する考察と記述には、創造に携わるものにとって多くを示唆する読みごたえのある内容です。

「ボーイスカウト白石隊長」

ある旅で宿が同室での朝、チェックアウトの慌ただしいひととき、白石さんが寝間着を丁寧にたたみ細帯をのぼして丸めている姿に感心し声をかけると、ボーイスカウトでのマナーと規律であるとの返事がかえってきました、そういえば白石さんはボランティアとして長年ボーイスカウト活動に関わり「兵隊の位では連隊長？」のユニフォームがお似合ひでした。

下戸でありながら宴席は避けず、しかし染まらず崩れない白石さんの残姿を偲びつつ、その幅広い活動の記憶をたどった想いで追悼の意といたします。



事務局からの
お知らせ

新会員 紹介 正会員

①会員名 ②会員番号(支部) ③推薦者 ④勤務先・事務所 ⑤自宅



① 景山 隆司
かげやま たかし

② 1309(関西事業支部)
③ 千田要宗・山本紗代子

④ AYAデザインポケット
〒660-0052
兵庫県尼崎市七松町1-3-1-1204
TEL:050-8885-9215 FAX:06-6418-5398
Email:t-kageyama@design-pocket.info
⑤ 同上



① 小林 和之
こばやし かずゆき

② 1310(関東事業支部)
③ 安藤清・木辺智子

④ (株)高島屋 柏店
⑤ 〒277-0042
千葉県柏市逆井3-12-13
TEL:04-7175-0780 FAX:04-7175-0780
Email:kaz-k@mba.ocn.ne.jp



① 森 勝利
もり かつとし

② 1311(中部事業支部)
③ 安藤清・木辺智子

④ (株)インテリアネットワークス
〒455-0882
名古屋市港区小賀須3-412
TEL:052-303-0609 FAX:052-302-5415
Email:k.mori@i-n-w.co.jp
⑤ 〒455-0882
名古屋市小賀須3-413
TEL:052-303-6050



① 間宮 吉彦
まみや よしひこ

② 1312(関西事業支部)
③ 安藤真吾・喜多俊之

④ (株)インフィクス
〒550-0005
大阪市西区西本町1-9-9 LAIDビル3F
TEL:06-6110-1128 FAX:06-6534-0577
Email:mamiya@infix-design.com

⑤ 〒550-0002
大阪市西区江戸堀1-6-17-4601
TEL:06-6449-3710

正会員 住所変更

吉良 ヒロノブ
有限会社吉良+DOデザイン研究室
〒183-0012
東京都府中市押立町1-34-1-401
TEL042-306-5036 FAX:042-306-5037

南 等(自宅)
〒244-0801
神奈川県横浜市戸塚区品濃町553-1
パークヒルズL棟307号室
TEL/FAX:045-392-8281

清家 淳一
有限会社清家デザイン事務所
〒541-0046
大阪市天王寺区夕陽丘町4-2-601
TEL06-6771-1139 FAX:06-6771-1339

田代 利志幸
たしろ住宅産業株式会社
〒822-0032
福岡県直方市下新入中曽根633-3
TEL:0949-25-1118 FAX:0949-24-5787
Email:tashiro@lime.ocn.ne.jp

賛助会員 社名・担当変更

コクヨオフィスシステム株式会社



コクヨファニチャー株式会社

担当者:TCM戦略部 埴岡 俊之
TEL:03-5510-4125
FAX:03-5510-4121

住所はそのままです。

JID news

企画・編集：本部広報委員会

担当理事兼委員長	石川尚
〃	小野由記子
JID news 担当リーダー	八十常充
〃 委員	村上信
〃 関東事業支部	櫻井良樹
〃 中部事業支部	竹川好郎
〃 関西事業支部	塚口眞佐子
〃 九州事業支部	前崎彌生

あとがき

今年の夏、香川県で行われた‘瀬戸内国際芸術祭2010’は予想をはるかに超える人気であったようです。それは来場目標30万人に対して新聞発表によると、なんと総数93万8246人(施設集計)を達成。

今は何をしても目標達成は難しい時代に何故だろうか？

私自身も2回訪れたが、人気の会場には長い行列や整理券の発行は午前中に終わっていたりでイラつきを感じる場面もしばしば……

来場者は40歳未満、女性、県外が7割を占めたようです。

人気の秘密は何か？

瀬戸内の島々は本当に美しい、それぞれの島は過疎化が進み朽ちた家屋もあちらこちらに見られるが……そこが都会の若者には非日常の魅力が秘められている。そこへArtのspiceが程よく効いたのか？

Artの手法、Designを上手にを使って、人々の関心を集めることの重要性を今回の芸術祭が証明したのではないだろうか……と思う。

デザインで世の中を元気に！生活を楽しく！

八十 常充

□次号スケジュール

- ・編集（企画）会議 1月末
- ・エントリー締切日 2月10日（木）
- ・原稿締切日 2月25日（金）
- ・編集（校正）会議 3月18日（金）
- ・発行日 3月末

*member's SALONはみなさんからの投稿をお待ちしています。デザイン情報、ご意見、エッセイや地域での情報などをお寄せください。

No.250

発行日：平成22年12月31日